

Asia Oceania News Wave

アジア・オセアニア ニュースウェーブ

Vol.187

2017年7月22日
～2017年8月4日

今号の内容

株式市場

・資金流入期待が強まる中、一部を除いて上昇

債券市場

・債券市場は、国によりまちまちな動き

為替市場

・アジア・オセアニア通貨の多くが対円で下落

各国の状況

アジア・オセアニア地域の状況



 岡三アセットマネジメント



本資料に関してご留意いただきたい事項

■本資料は、投資家の皆様へのアジア・オセアニア地域の情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

株式市場

Equity

資金流入期待が強まる中、一部を除いて上昇

7月24日～8月4日のアジア・オセアニア地域の株式市場は、一部を除いて上昇しました。アジアの通貨が対米ドルで上昇したことを受けて投資資金が域内に流入するとの期待が強まりました。また、国際通貨基金（IMF）がアジア新興国の2017年のGDP成長率見通しを上方修正したことも支援材料になりました。

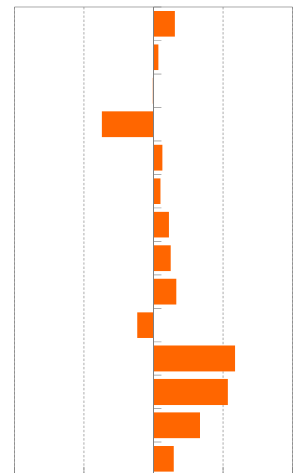
香港は、ストックコネクトを通じた中国本土からの資金流入期待が高まり、大型株主導で上昇しました。ベトナムは、小売売上高や輸出額などの経済指標がいずれも景気拡大を示唆する中、好決算を発表した企業を中心に選別投資の動きが強まり、上昇しました。一方で韓国は、政府が大手企業に対する増税を検討しているとの報道を受けて大型株が売られ、軟調に推移しました。

<各株式市場の株式指数の騰落率（2017/8/4現在）>

インデックス	8/4 現在	騰落率		
		7/21 比	3ヵ月前比	1年前比
イトム・ムバ イSENSEX30種	32,325.41	0.9%	7.3%	16.6%
イトム・ネア・ジャカルタ総合	5,777.48	0.2%	1.9%	7.5%
オーストラリア・S&P/ASX 200	5,720.58	-0.04%	-2.7%	4.5%
韓国・韓国総合	2,395.45	-2.2%	6.9%	19.8%
シンガポール・ST	3,326.52	0.4%	3.0%	17.5%
タイ・SET	1,578.26	0.3%	0.3%	4.7%
台湾・加権	10,506.56	0.7%	5.4%	16.4%
中国・上海総合	3,262.08	0.7%	4.3%	9.4%
ニューゼaland・NZSX 浮動株50	7,746.12	1.0%	5.0%	6.1%
フィリピン・フィリピン総合	7,932.82	-0.7%	2.3%	-0.6%
ベトナム・VN	788.68	3.5%	9.2%	24.8%
香港・ハンセン指数	27,562.68	3.2%	11.7%	26.2%
香港・ハンセン中国企業株（H株）	11,003.08	2.0%	9.1%	22.2%
マレーシア・FTSE700 マレーシアKLCI	1,774.53	0.9%	0.9%	7.2%

<7/21比の騰落率>

-6% -3% 0% 3% 6%



※表中の基準日データが取得できない場合、取得可能な前営業日データを使用。

債券市場

Bond

債券市場は、国によりまちまちな動き

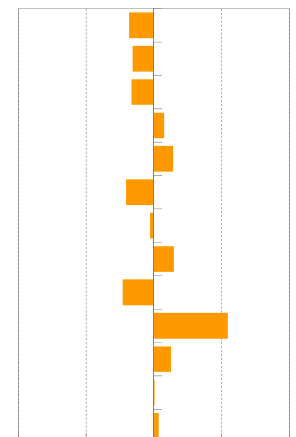
7月24日～8月4日の債券相場は、国によりまちまちな動きとなりました。ニュージーランドについては、米国債利回りの低下(価格は上昇)の影響に加え、同国の雇用指標が下振れたことなどから利回りが低下(価格は上昇)しました。一方フィリピンについては、今年上半期の財政収支が目標より大幅な赤字となったことや、イスラム過激派掃討など地政学リスクが意識されたことなどから、利回りが上昇(価格は下落)しました。また当期間に、インドは0.25%の利下げを行いました。

<各国債券市場の5年債利回りの変化幅（2017/8/4 現在）>

発行国	利回り (%)	変化幅		
		7/21 比	3ヵ月前比	1年前比
インド	6.44	-0.07	-0.49	-0.64
インドネシア	6.71	-0.06	0.01	-0.03
オーストラリア	2.15	-0.07	-0.03	0.60
韓国	1.95	0.03	0.06	0.68
シンガポール	1.56	0.06	-0.05	0.13
タイ	1.78	-0.08	-0.40	0.09
台湾	0.72	-0.01	-0.08	0.21
中国	3.61	0.06	0.15	1.01
ニュージーランド	2.48	-0.09	0.07	0.63
フィリピン	4.63	0.22	0.06	1.50
ベトナム	4.65	0.05	-0.65	-1.53
香港	1.23	0.001	-0.01	0.63
マレーシア	3.70	0.01	0.10	0.46

<7/21比の変化幅>

-0.4 -0.2 0 0.2 0.4 (%)



※表中の基準日データが取得できない場合、取得可能な前営業日データを使用。

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果等を保証するものではありません。
表紙の「本資料に関してご留意いただきたい事項」と巻末の「皆様の投資判断に関する留意事項」を必ずご覧ください。
本資料のデータ等は、Bloomberg、各種資料をもとに作成しております。

為替市場

Currency

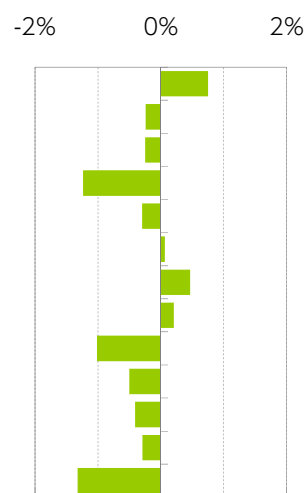
アジア・オセアニア通貨の多くが対円で下落

7月24日～8月4日の為替相場は、米連邦公開市場委員会（FOMC）声明が追加利上げに慎重と解釈されたことや、一部の米経済指標が低調であったことなどから、ドルが対円で下落した影響を受けて、アジア・オセアニア通貨の多くが対円で軟調に推移しました。一方、インド・ルピーは、同国中央銀行が利下げを行ったものの、金融緩和が経済を後押しする材料と受け止められたことから、上昇しました。

<各為替レート（対円）の騰落率（2017/8/4 現在）>

国・通貨	対円レート	騰落率		
		7/21 比	3カ月前比	1年前比
インド・ルピー	1.74	0.8%	-0.6%	15.1%
インドネシア・ルピア	0.83	-0.2%	-1.4%	8.1%
オーストラリア・ドル	87.75	-0.2%	5.3%	13.7%
韓国・ウォン	9.81	-1.2%	-1.0%	7.9%
シンガポール・ドル	81.34	-0.3%	1.3%	7.8%
タイ・バーツ	3.32	0.1%	2.4%	14.6%
台湾・ドル	3.67	0.5%	-1.6%	14.8%
中国・人民元	16.47	0.2%	0.7%	8.2%
ニュージーランド・ドル	81.99	-1.0%	6.1%	12.9%
フィリピン・ペソ	2.19	-0.5%	-3.1%	1.7%
ベトナム・ドン	0.49	-0.4%	-1.6%	7.2%
香港・ドル	14.19	-0.3%	-1.8%	8.7%
マレーシア・リンギット	25.74	-1.3%	-1.2%	2.7%

<7/21 比の騰落率>



※インドネシア・ルピア、韓国・ウォン、ベトナム・ドンは100倍して表示。
 ※表中の基準日データが取得できない場合、取得可能な前営業日データを使用。

各国の状況

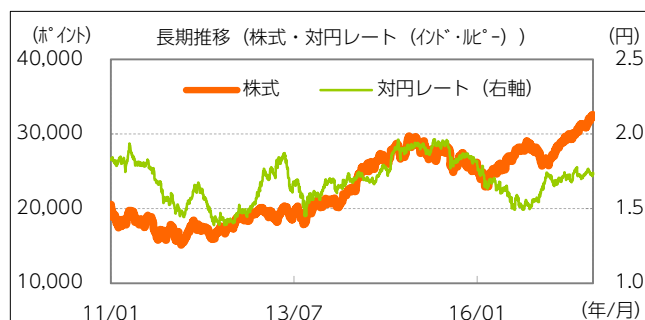
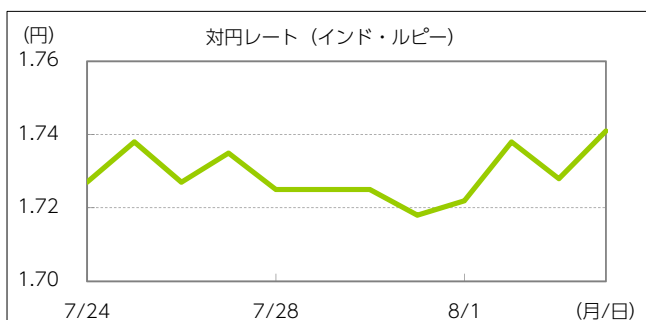
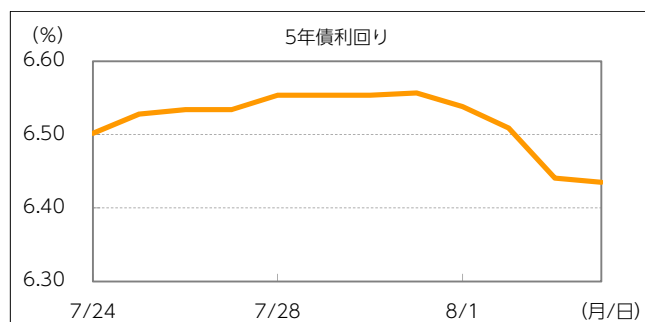
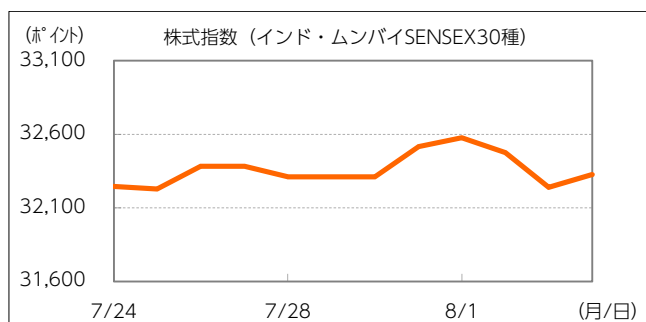
※株式指数、5年債利回り、対円レートグラフは2017年7月24日～2017年8月4日までの期間。※長期推移グラフの期間は2011年1月4日～2017年8月4日まで。※取引市場が休場の場合は前営業日の値を用いて表示しています。

インド

India



中央銀行は2日、金融政策決定会合を開き、政策金利を0.25%引き下げて、6.00%とした。利下げは、2016年10月の会合以来、10ヵ月ぶり。消費者物価指数(CPI)の上昇率が中期目標の4%水準を下回っていることを踏まえ、成長の下支えに軸足を置く構え。



市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果等を保証するものではありません。
 表紙の「本資料に関してご留意いただきたい事項」と巻末の「皆様の投資判断に関する留意事項」を必ずご覧下さい。
 本資料のデータ等は、Bloomberg、各種資料をもとに作成しております。

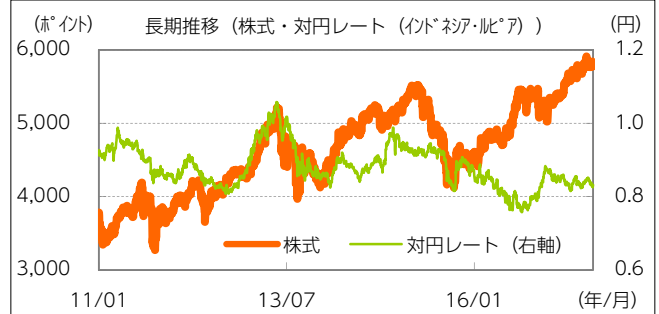
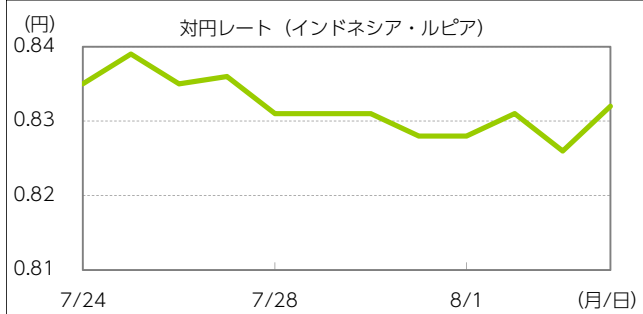
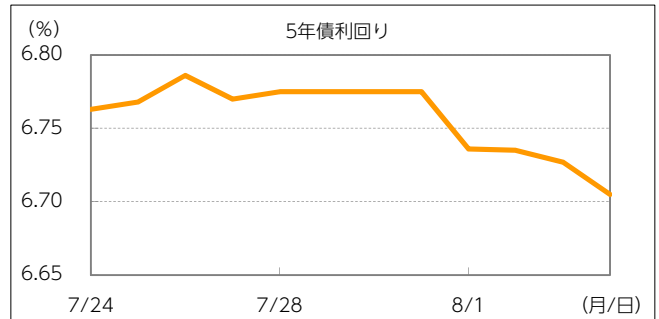
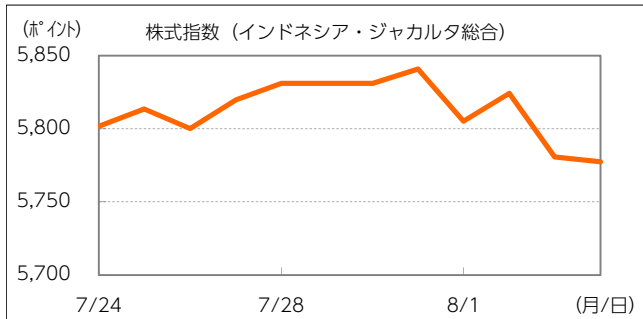
各国の状況

※株式指数、5年債利回り、対円レートグラフは2017年7月24日～2017年8月4日までの期間。※長期推移グラフの期間は2011年1月4日～2017年8月4日まで。※取引市場が休場の場合は前営業日の値を用いて表示しています。

インドネシア

Indonesia

統計局が発表した7月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比3.88%上昇し、市場予想とほぼ一致した。



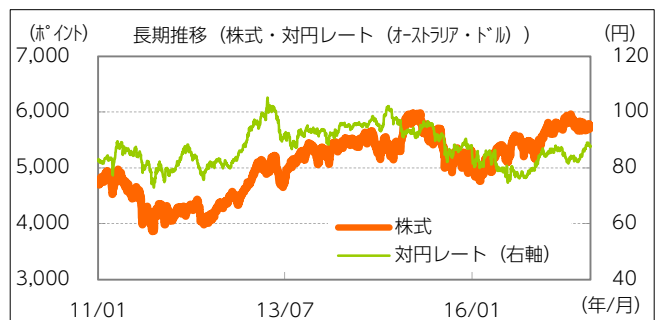
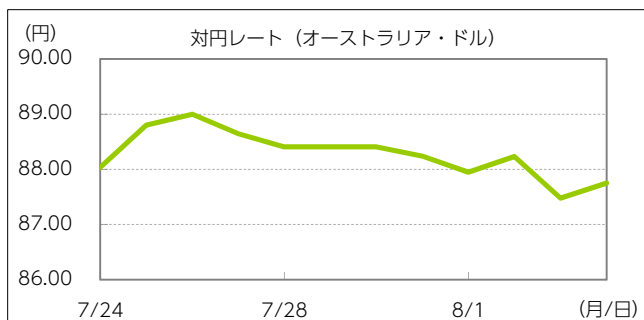
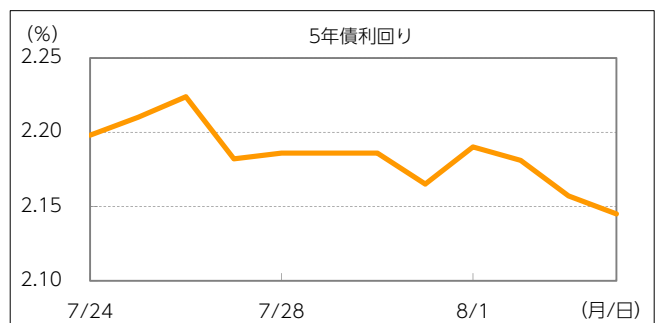
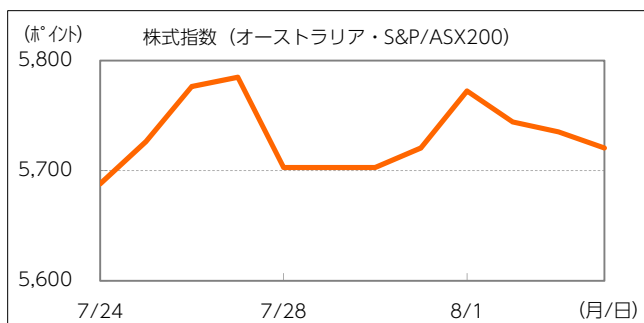
※インドネシア・ルピアは100倍して表示

※インドネシア・ルピアは100倍して表示

オーストラリア

Australia

連邦統計局が発表した第2・四半期の消費者物価指数(CPI)は、総合に相当するオールドグループが前期比0.2%上昇し、市場予想を下回る伸びとなった。CPIの下振れを受けて豪ドルは対米ドルで軟化。市場は、中央銀行による利上げの予想時期を先送りする動きとなった。



市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果等を保証するものではありません。
表紙の「本資料に関してご留意いただきたい事項」と巻末の「皆様の投資判断に関する留意事項」を必ずご覧下さい。
本資料のデータ等は、Bloomberg、各種資料をもとに作成しております。

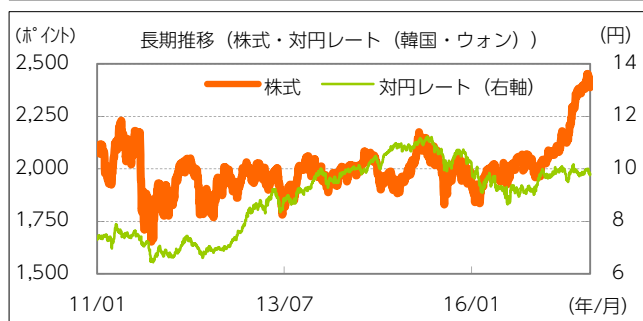
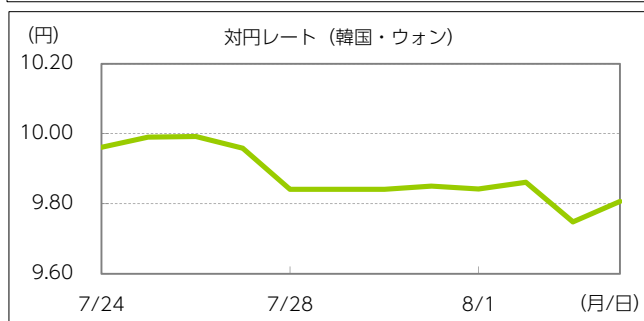
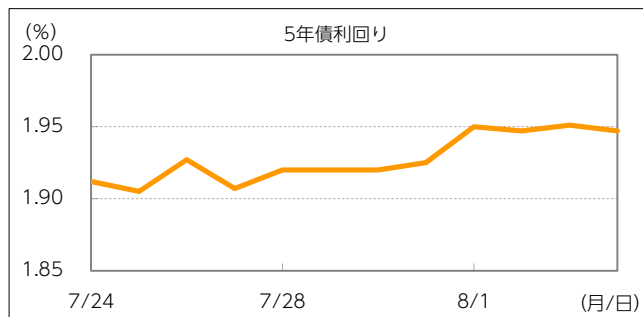
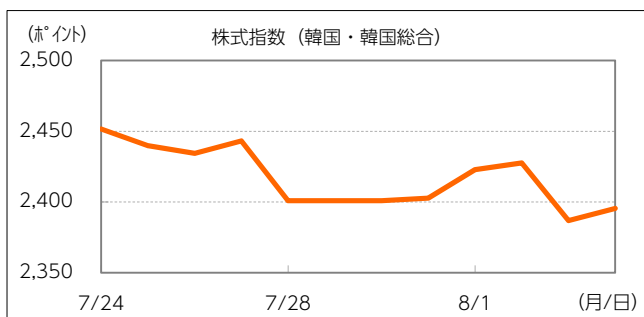
※株式指数、5年債利回り、対円レートグラフは2017年7月24日～2017年8月4日までの期間。※長期推移グラフの期間は2011年1月4日～2017年8月4日まで。※取引市場が休場の場合は前営業日の値を用いて表示しています。

韓国

Korea



中央銀行が発表した第2・四半期の国内総生産(GDP)速報値は、季節調整済みで前期比0.6%増と、前期の1.1%増から伸びが半分に鈍化。建設活動が減速し、輸出が減少したが、消費が予想外に堅調だったことが背景にある。



※韓国・ウォンは100倍して表示

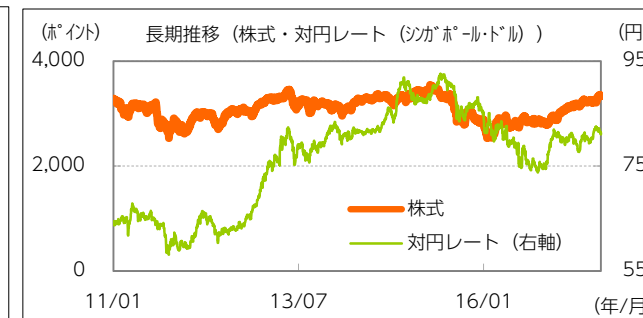
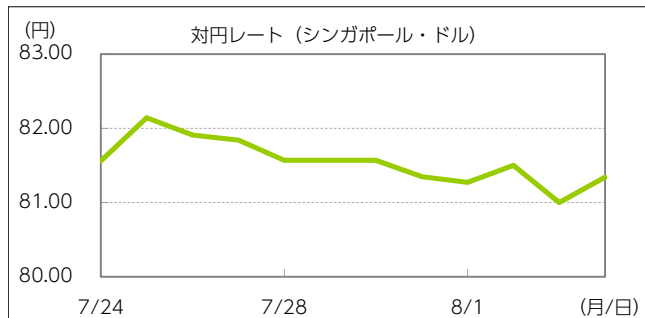
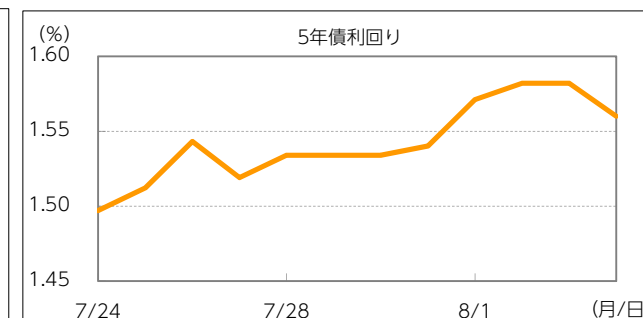
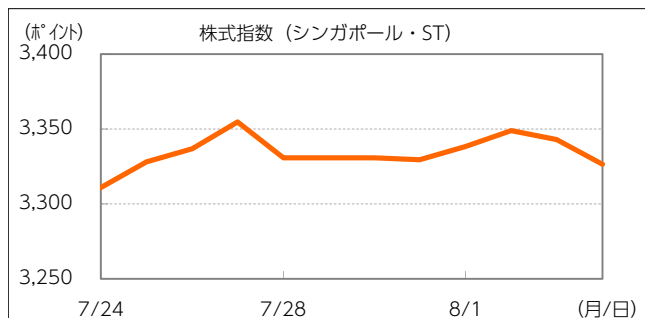
※韓国・ウォンは100倍して表示

シンガポール

Singapore



経済開発庁が発表した6月の鉱工業生産(製造業生産)は前年比13.1%増加。電子機器と医薬品の生産が大きく伸びたことが要因となった。



各国の状況

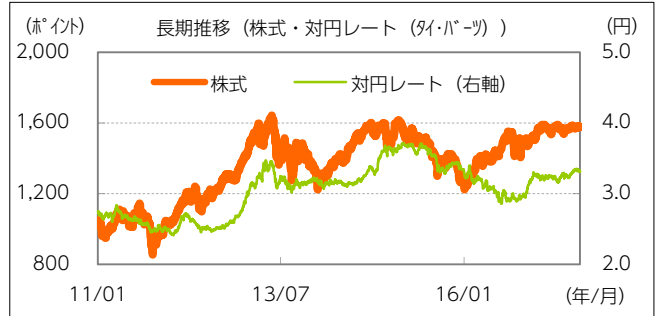
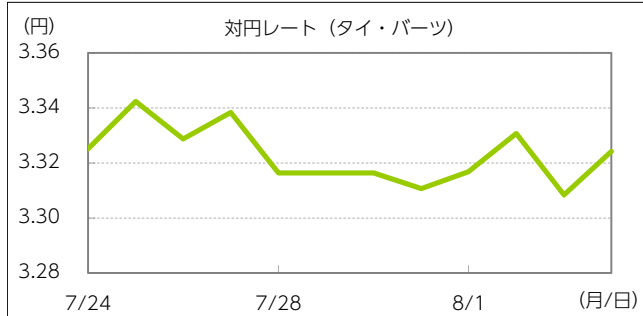
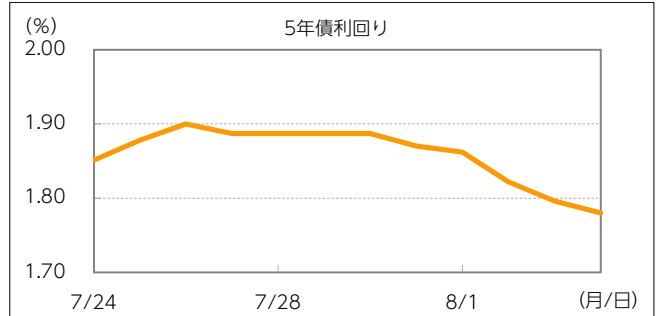
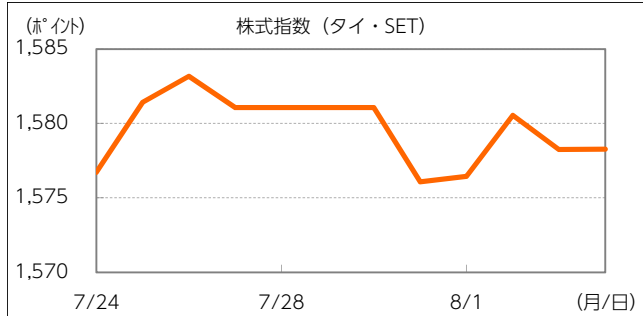
※株式指数、5年債利回り、対円レートグラフは2017年7月24日～2017年8月4日までの期間。※長期推移グラフの期間は2011年1月4日～2017年8月4日まで。※取引市場が休場の場合は前営業日の値を用いて表示しています。

タイ

Thailand



空港公社は、運営する国内主要6空港の6月の利用者数が前年同月比10.7%増の982万6,105人だったと発表。2桁成長は5ヵ月ぶりとなった。2割以上伸びた北部チェンライ空港を筆頭に、6空港全てで増加した。

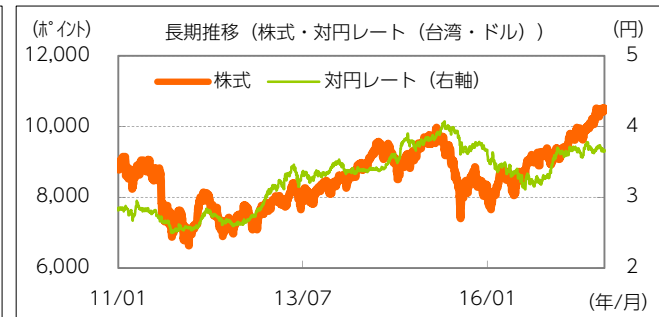
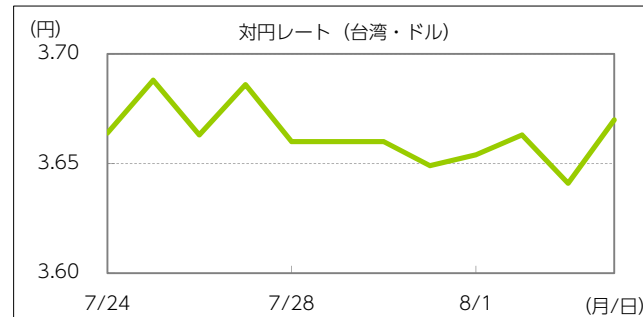
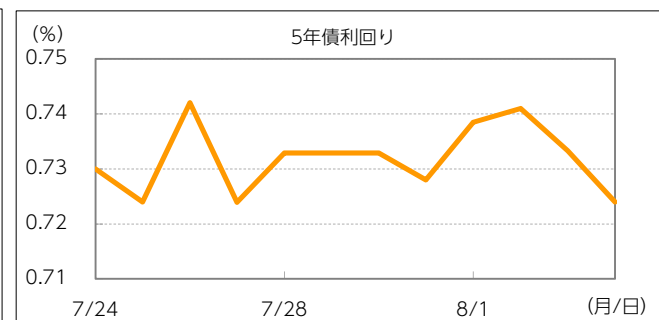
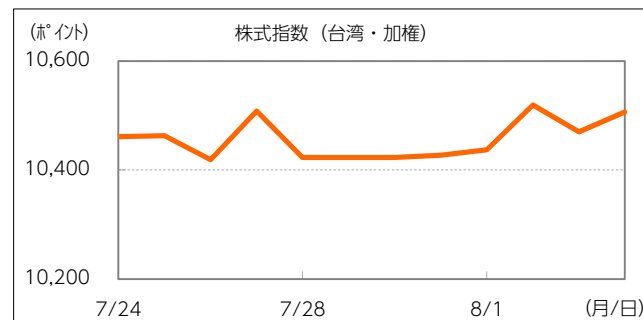


台湾

Taiwan



行政院主計総処(統計局)が発表した第2四半期(4～6月)の実質域内総生産(GDP)の成長率は、前年同月比2.10%だった。2016年下半年(7～12月)以来、旺盛だった半導体大手各社の資本形成に対する投資ペースが緩慢だったことが影響し、5月の予測値を0.04ポイント下回った。



市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果等を保証するものではありません。
表紙の「本資料に関してご留意いただきたい事項」と巻末の「皆様の投資判断に関する留意事項」を必ずご覧下さい。
本資料のデータ等は、Bloomberg、各種資料をもとに作成しております。

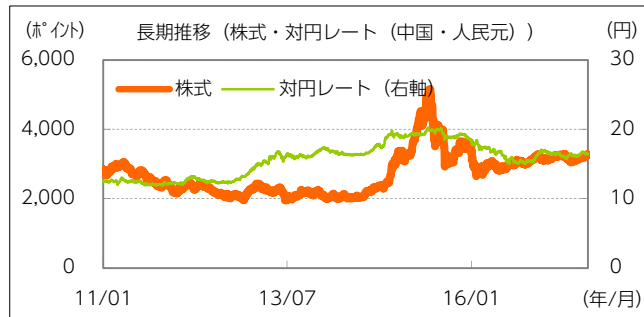
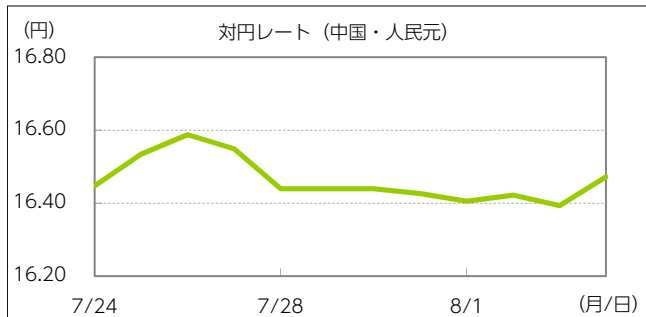
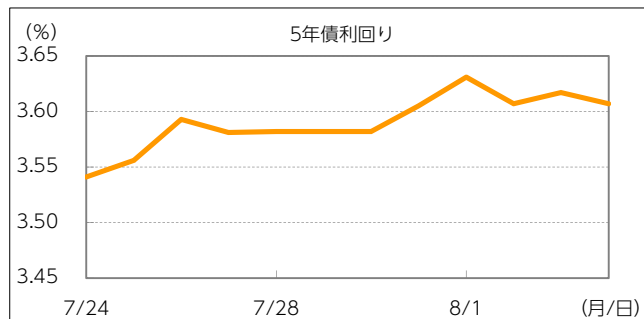
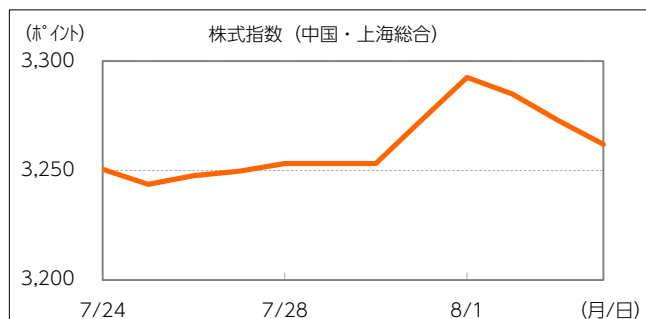
※株式指数、5年債利回り、対円レートグラフは2017年7月24日～2017年8月4日までの期間。※長期推移グラフの期間は2011年1月4日～2017年8月4日まで。※取引市場が休場の場合は前営業日の値を用いて表示しています。

中国

China



国家统计局と中国物流購買連合会は、景況感を示す製造業購買担当者指数(PMI)が7月は51.4だったと発表。前月を0.3ポイント下回り、2ヵ月ぶりに下落に転じた。景況判断の節目となる50は12ヵ月連続で上回っている。

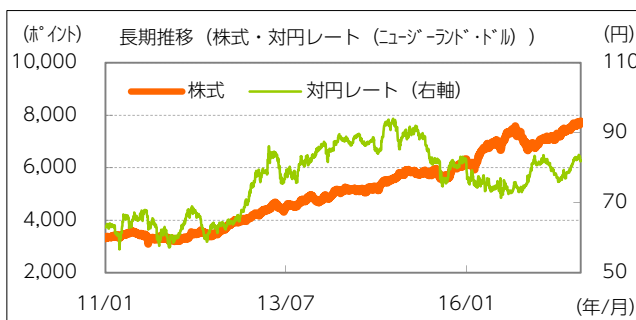
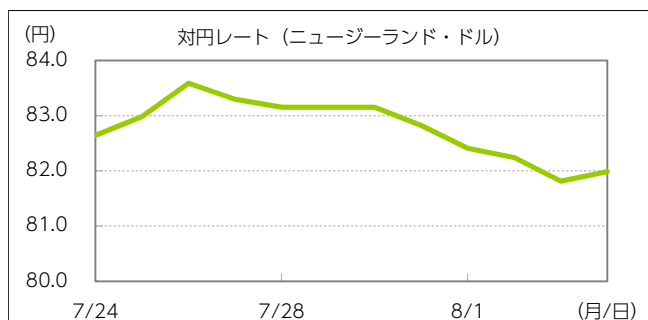
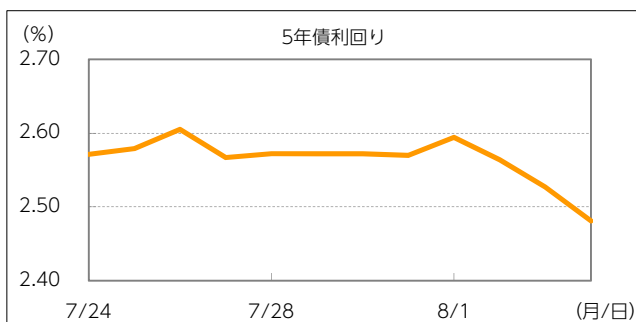
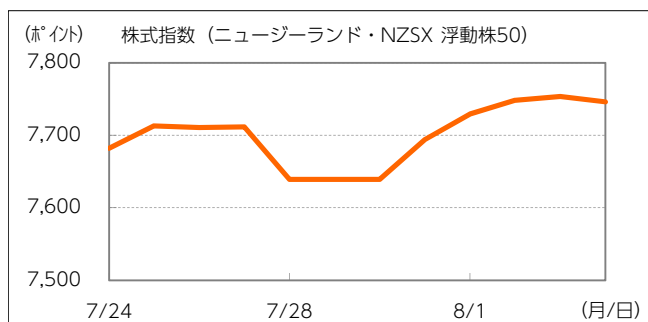


ニュージーランド

New Zealand



乳業大手フォンテラは2017・2018年度に生産者に支払う乳価(生産者乳価、乳固形分1キログラム当たり)の予想を6.75NZドルに引き上げた。世界的な需要拡大が背景。



各国の状況

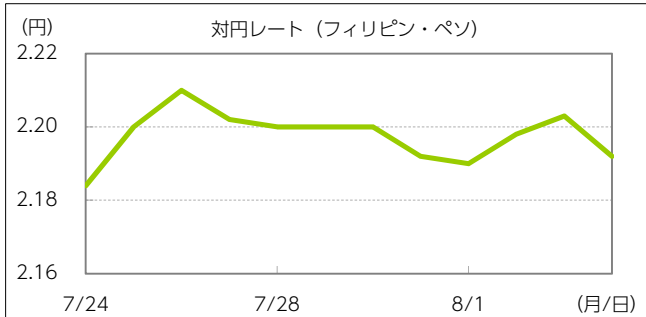
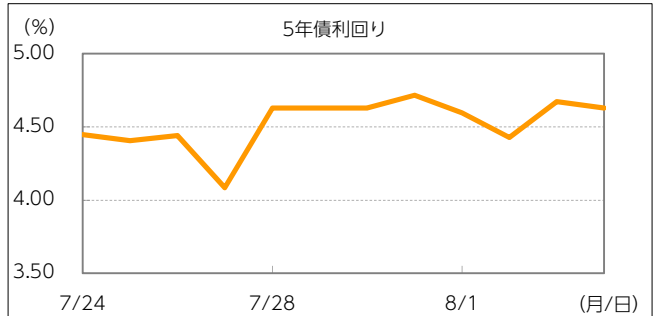
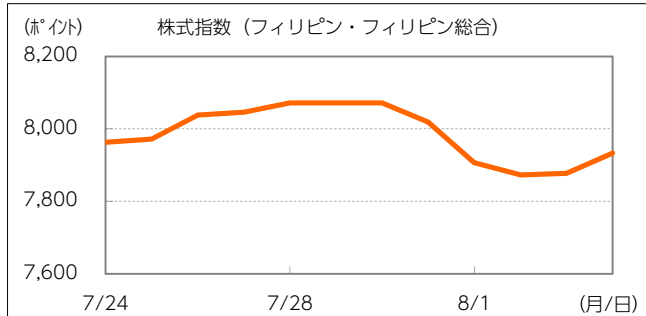
※株式指数、5年債利回り、対円レートグラフは2017年7月24日～2017年8月4日までの期間。※長期推移グラフの期間は2011年1月4日～2017年8月4日まで。※取引市場が休場の場合は前営業日の値を用いて表示しています。

フィリピン

Philippines



統計庁が発表した2017年・第1四半期（1～3月）のマニラ首都圏の労働移動率（入職率と離職率の差）は、1.27%となり、13四半期連続の入職超過。0.96%だった前年同期から上昇したものの、前期の3.36%からは低下した。

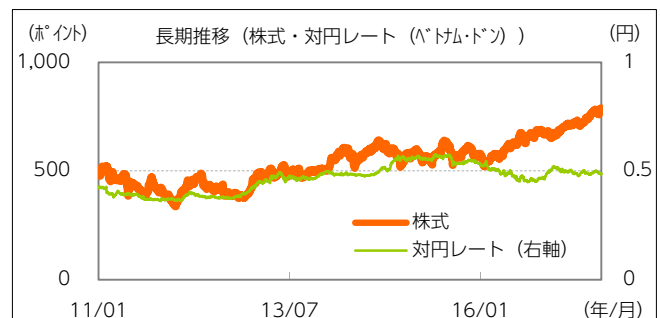
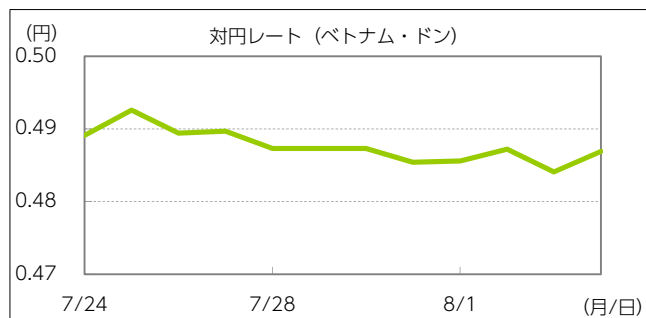
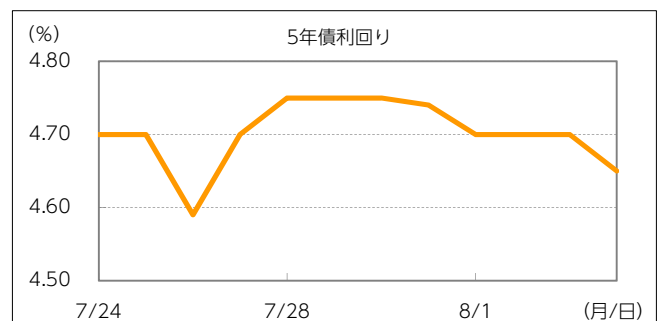
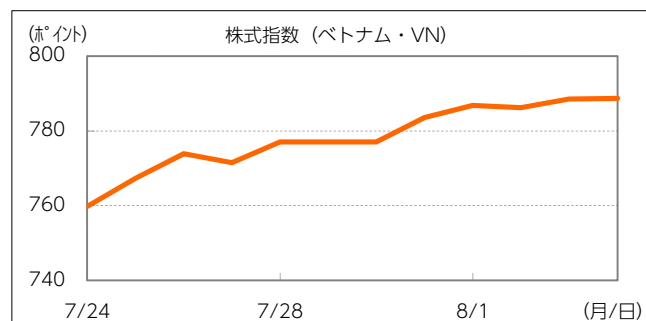


ベトナム

Vietnam



統計総局が発表した2017年7月の鉱工業生産指数の上昇率は、前年同月比8.1%。鉱業以外が2桁の上昇率を記録したものの、6月の8.6%から減速した。



※ベトナム・ドンは100倍して表示

※ベトナム・ドンは100倍して表示

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果等を保証するものではありません。
表紙の「本資料に関してご留意いただきたい事項」と巻末の「皆様の投資判断に関する留意事項」を必ずご覧下さい。
本資料のデータ等は、Bloomberg、各種資料をもとに作成しております。

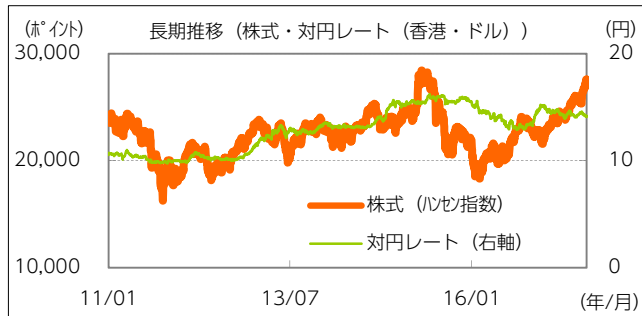
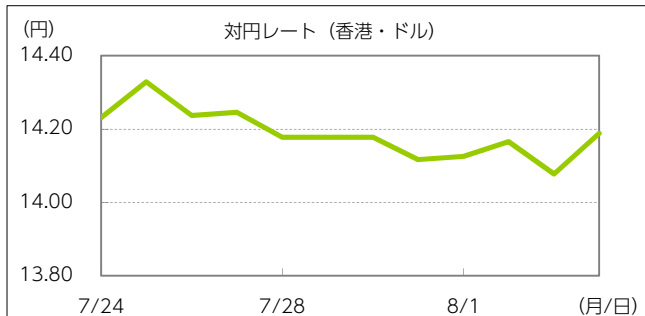
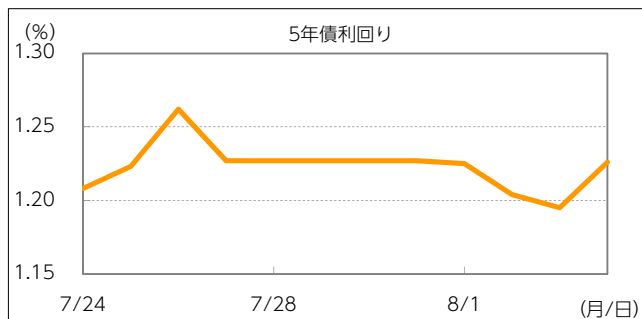
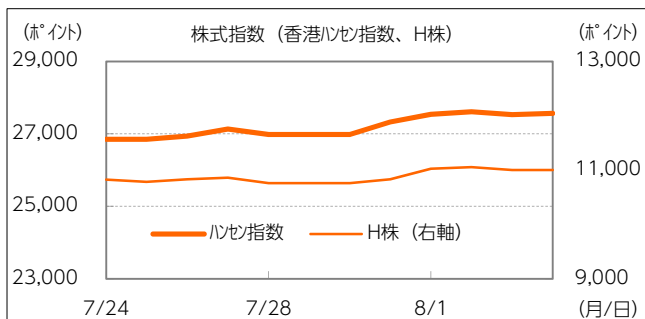
※株式指数、5年債利回り、対円レートグラフは2017年7月24日～2017年8月4日までの期間。※長期推移グラフの期間は2011年1月4日～2017年8月4日まで。※取引市場が休場の場合は前営業日の値を用いて表示しています。

香港

Hong Kong



政府統計処が発表した6月の輸出額は、前年同月比11.1%増の3,294億600万HKドル(約4兆7,000億円)。伸び幅は前月から7.1ポイント拡大し、5ヵ月連続のプラス成長となった。

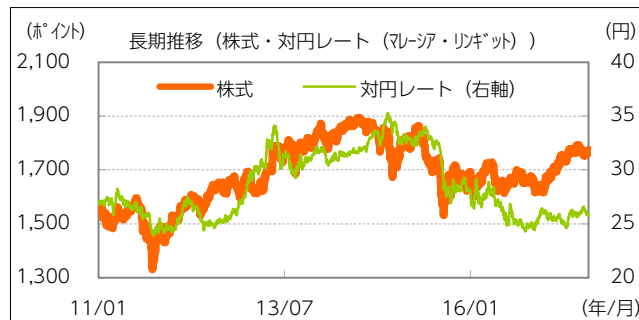
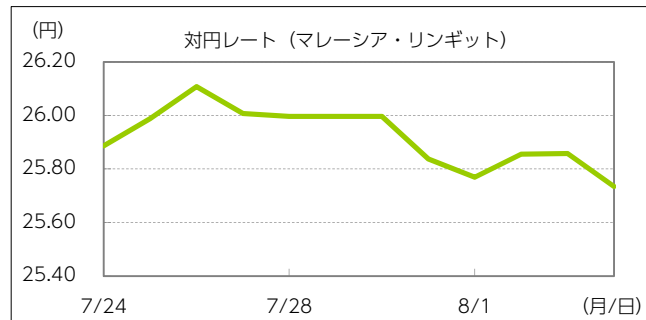
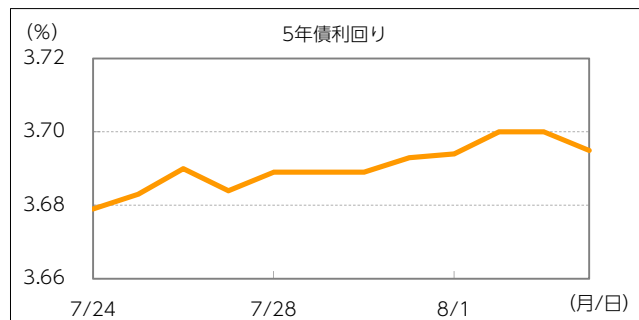
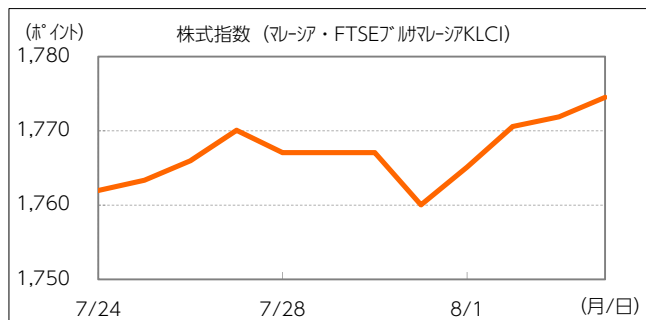


マレーシア

Malaysia



国際通貨基金(IMF)は発表した世界経済見通しで、2017年のマレーシアの国内総生産(GDP)の成長率が4.8%になるとの予測を示し、2017年5月に示した予測の4.5%から金融政策の安定性を評価し上方修正した。



市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果等を保証するものではありません。
表紙の「本資料に関してご留意いただきたい事項」と巻末の「皆様の投資判断に関する留意事項」を必ずご覧下さい。
本資料のデータ等は、Bloomberg、各種資料をもとに作成しております。

アジア・オセアニアのニュースがよく分かる

アジオセ辞典 今回のテーマは・・・世界の半導体市場

【世界の半導体市場】

WSTS（世界半導体市場統計）が2017年の世界半導体市場を前年比11.5%増になると大幅な上方修正を行ったのがこの6月。前回の予測は2016年11月に発表されていたが、その時は3.3%成長だった。それ以外の市場調査会社の予測も、次々と上方修正してきており、IC Insightsは4月に11%成長、Gartnerは5月に12.3%成長、SEMIは7月に19.8%増へと修正している。バブル期を超え過去最高となる市場に、今再び注目が集まっている。

気になるニュースをトコトン深読み
そこが知りたい！

世界の半導体を牽引するサムスンの「逆襲」始まる！

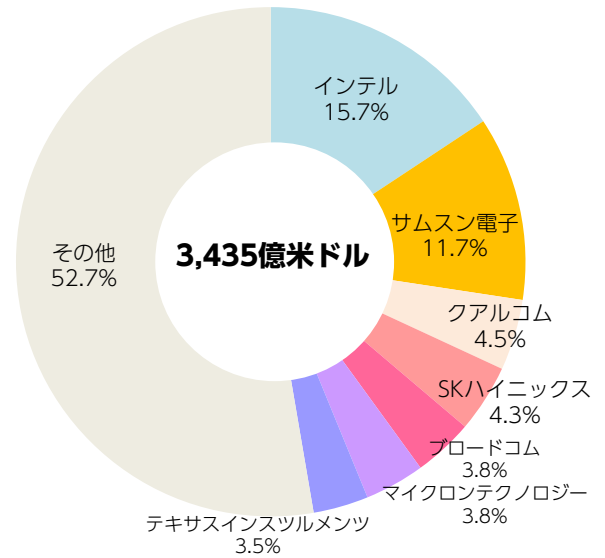
米インテルが7月27日に2017年の4-6月期の連結売上高を前年同期比9%増と発表しました。

この結果、47%の増収となったサムスン電子が24年ぶりに世界半導体市場の首位となったことが明らかになり、話題を呼んでいます。

世界の半導体製造装置の販売額は2017年、ITバブル時の2000年を超え過去最高になる見通しで、米Gartnerによれば、2017年の半導体市場は4,014億米ドルと初めて4,000億米ドルを突破する見込みです。市場を牽引している商品としてはDRAMとNAND型フラッシュメモリーが挙げられており、韓国のサムスン電子はこの両方を製造していることもあって好調な業績となっています。

中でもNAND型のフラッシュメモリーは、スマホやデータセンターの記憶用に需要が拡大しており、サムスンは16年にこの分野に約1兆円を投資しています。また、第4位に入っているSKハイニックスも、DRAMで稼いだ利益をNAND型の増産に充てるなど、韓国勢のこの分野への投資はかなり積極的なものとなっていることがわかります。実際、国・地域別で見てもメモリー2強を擁する韓国が2017年に最大市場となる見通しです。

【世界の半導体市場売上（2016年）】



(出所) Gartnerのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

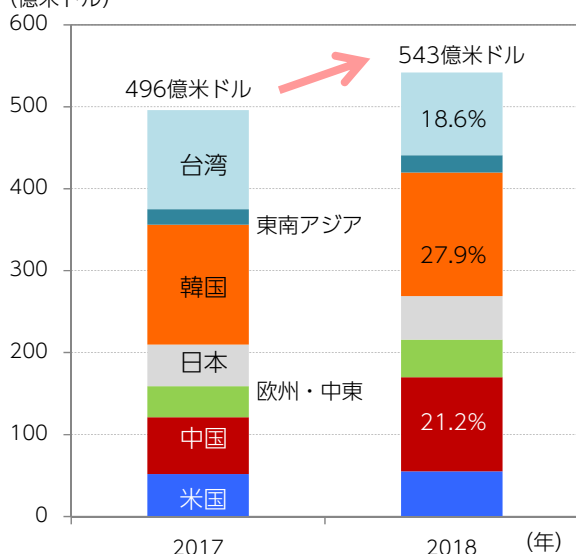
ところで、インテルはなぜサムスン電子に抜かれる状況となったのでしょうか。理由のひとつに、インテルは日本のCMでも有名となった「インテル、はいって（インテル・インサイド）」が表すパソコンの頭脳に当たるCPU（中央演算処理装置）に依存する事業モデルからの転換の遅れが挙げられています。

一方のサムスン電子は、上述のDRAMとNAND型フラッシュメモリーに加え、ビッグデータの需要でサーバーへの受注も伸びており、増産に向けて1-6月期に約1兆2,500億円と前年同期比のおよそ3倍の設備投資を行うなど、積極的に需要動向を捉えた対応を行ったことが奏功しており、こうした点が両者（社）の明暗を分けたといえそうです。

このように、最近の世界の半導体製造装置の堅調な販売は、サムスン電子をはじめとした有力企業の設備投資に牽引されています。

サムスン電子は9月にも発売が予定されるiPhone8のパネルである「OLEDパネル」（有機ディスプレイ）の提供など、株価の好材料に加え、最近では自社株買いや増配を通じて株主利益の改善に努めるなど、将来の配当成長も期待されています。AI関連分野への投資により今後の成長も期待されるなど、サムスン電子の逆襲（？）はまだ始まったばかりといえそうです。

【世界の半導体投資（5月時点の予測）】



(出所) SEMIのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

岡三アジアオセアニア新聞

2017年
8月8日
火曜日



常に暑い国の食生活

〜シンガポール〜

シンガポールの常識!?

毎日暑い日が続くと食欲がなくなりがちですが、一年を通して高温多湿なシンガポールに住む人々は、どのような食生活をしているのでしょうか。今回は暑さとうまく付き合うシンガポールの生活を紹介します。

シンガポールは、日本の8月の気温が一年中続く、高温多湿な気候です。暑く、ゆったりとした中では国が発展しないという考えから、国策として冷房の完備してきた国なので、屋内の冷房の設定温度は平均19度とかなり低めになっています。そのためか、風邪を引いている人が多いというのが、シンガポールの常識なのだそうです。身体のバランスを崩した時は、食事で冷やす、または温める作用のある食品を摂ることがあるそうです。熱っぽい時には身体を冷やす食品として、きゅうりやソフトドリンク、氷、スイカ、マンガスチン、ココナッツジュースを摂り悪寒がする時には身体を温めてくれるジンジャー、辛い物、揚げ物、ドリアン、マンゴーなどを摂ります。果物の名前が出てくるところは、南国らしさを感じます。その他にもシンガポールは多民族国家のため、民族の数ほど風邪の治療方法があります。



外食が充実

多民族国家シンガポールでは、中華料理、マレー料理、インド料理など様々な料理を提供する飲食店が、フードコートやホーカーセンター(屋上や飲食店などが集まった野外複合施設)に軒を連ねています。シンガポールは男女共に仕事をしている割合が高いこともあり、手軽な外食文化が発達したといわれています。一日三食をすべて外食する人も多いようです。湿度が高いため、野外の店舗の衛生面は特に心配になります。政府の厳しい監視があり、営業取消しなどの罰則が定められているため安心です。



シンガポールで代表的な料理は、蒸し鶏の「チキンライス」やココナッツベースのスープ麺「ラクサ」、蝦入り焼きそば「ホッケンミー」などがあります。これに、ジュースなどの飲み物で、野菜や果物を摂ることが可能なため、バランスの良い食事を摂ることができます。また、暑い地域ならではの甘い飲み物やスイーツは欠かせないようで、ホーカーセンターなどでも様々な専門店があります。

暑い夏も、体調に合った食材を利用して、健康にお過ごしください。

ローカルスイーツ

シンガポールでは色々な食文化がミックスされて、独自のローカルスイーツを生み出しているそうです。いくつかご紹介いたします。

<チェンドル>

日本のかき氷のようなスイーツです。氷の上に茹でた小豆と、抹茶色のチェンドルという太麺のようなゼリーがトッピングされ、味付けはココナッツミルクとブランシュガーなどの甘いものです。チェンドルはベトナムやタイでも食されますが、かき氷スタイルはシンガポールならではのようです。



<豆花>

豆乳で作ったプリンのようなスイーツです。豆花自体に味はないのですが、甘い蜜をかけて食します。スタイルを気にする女性に人気があります。

<マンゴーポメロサゴ>

マンゴーの果実にポメロ(グレープフルーツのような果実)とタピオカが入ったスイーツです。



<アイスカチャン>

「カチャン」はマレーシア語で豆を意味し、かき氷の上に豆やゼリーをのせたものです。チョコレートやストロベリー、ピーナッツなどのアイスカチャンも増えてきているそうです。



フルーツの女王

温暖なアジアで収穫されるフルーツは数多くありますが、中でもフルーツの女王と呼ばれ、夏バテに効くといわれているのが「マンゴスチン」です。

マンゴスチンは、炭水化物を分解してエネルギーに変換するビタミンB1と、骨の形成に役立つマンガンがやや多く含まれています。

大きさは4~6cmほどで、中の果肉は乳白色で、5~6房に分かれています。中に大きめの種が入っています。甘酸っぱく、みずみずしいのが特徴です。

日本では冷凍されたものだけが輸入されていましたが、2003年からは生果も解禁され、現在多くはタイから輸入されています。日持ちが良くないので、乾燥を避けて、数日で食べきの方が美味しくいただけます。見掛けた際は、是非試してみてください。



岡三アセットマネジメントについて

商号：岡三アセットマネジメント株式会社
当社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。
登録番号：関東財務局長(金商)第370号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託に関するご質問は、フリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせ下さい。

0120-048-214 (営業日の9:00-17:00)

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様に帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.78%（税抜3.5%）

- お客様が換金時に直接的に負担する費用
信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内

- お客様が信託財産で間接的に負担する費用
運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
：純資産総額×実質上限年率2.052%（税抜1.90%）

※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。

その他費用・手数料

監査費用：純資産総額×上限年率0.01296%（税抜0.012%）

※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。

※ 監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号：岡三アセットマネジメント株式会社

事業内容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業

登 録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。